

令和6年度第2回小笠原村ゼロカーボン推進地域会議
議事要旨（父島・母島）

■ 母島：令和6年10月31日（木）午前10時30分から11時55分まで
小笠原村母島支所大広間

■ 父島：令和6年11月6日（木）午後3時30分から5時まで
小笠原村役場本庁舎会議室A

■ 議事

（1）ごみ分別ガイドブック素案について（報告事項・意見交換）

資料1、参考資料1、2を用いて事務局より説明

- ・家電リサイクルは、高齢者など自ら対応が難しい人向けの相談先を記載してあると良い。
- ・バッテリーの「大きさ」や資源物の「汚れ」など、程度が主観的で分かりにくいので表現の工夫が必要である。
- ・金属やプラスチックが付いている製品をどこまで分別するべきか悩むところなので、分かりやすく解説があるとよい。
- ・飲料缶は潰さないでよいのであれば、その点を記載した方がよい。
- ・段ボールを束ねる際にガムテープは不可であれば、「紐で縛る」と明記した方がよい。
- ・紙版を紛失しても見られるように、村のホームページへの掲載案内や、QRコードの表示などもあるとよい。
- ・ハンドブックは家庭用とあるが、事業系ごみの出し方が難しいので、ガイドブックとは別に村での出し方や内地搬出にあたり離島でも対応してくれる事業者の連絡先などの紹介があるとよい。

（2）ゼロカーボンワークショップについて（報告事項）

資料1を用いて事務局より説明

- ・意見なし

（3）意見交換：家庭や事業所において以下取組を進める方策について

（1）ごみの減量、資源化の推進について

【ごみ回収に関する現場視察会について】

- ・現場視察に限らず、動画などを活用した広報を行うと、様々な人が村について知ることが出来る。
- ・繁忙期が人により異なるため、時期をずらして数名ずつ開催できると参加しやすい。
- ・ははじま丸の運行スケジュールを見て、効率よく行ける日程にすると良い。
- ・リレーセンターの生ごみコンポストを視察してみたい。

【コンポスト普及のための工夫】

- ・使用後のコンポストの土の活用方法や回収場所が定まっているとよい。
- ・母島では生ごみ回収があるので、家庭用コンポストを使う利点が明確にできると良い。

【その他】

- ・資源リサイクル拠点回収のコンテナについて、さらなる村民への周知が必要である。
- ・洗っていないペットボトルや缶は自動販売機や事業用のごみ箱に多い。こういった場所にごみ箱を置かず、家や宿への持ち帰りを推奨できるとよい。

(2) 省エネの推進

- ・ 公共施設の建替えの際に積極的に太陽光発電設備を取り入れる必要があるのではないか。
- ・ 太陽光発電や蓄電池の導入について、国や東京都の補助金の対象外となる要件をカバーできる村の補助金があるとよい。災害対策として導入を促進することもできる。
- ・ 大学などの研究機関と連携して方法を検討出来ると良い。
- ・ 先進地域・先進技術を勉強していくことも行えると良い。
- ・ 省エネの達成状況を棒グラフなど分かりやすく視覚的に示してはどうか。
- ・ エネルギーの仕組みについて分かりやすく伝えるなど、大人の社会見学のような企画にすると参加して面白く興味を持ってもらいやすいのではないか。

(3) 構成員について

- ・ 子育て世代のPTAはこういった課題に関心が高い。
- ・ クリーンセンターなどの現場の生の声は最も重要と感じる。

【その他（全体の展開について）】

- ・ ゼロカーボンに関する取組みを小中学校教育と連携して展開すると有意義なものになるのではないか。
- ・ 本会議で決まったルールを受けただけではなく、村民が現場の苦労を認識して、ごみ問題について考える機会があるとよい。
- ・ 工事事業者もかなり多いため、これらの人達にも周知が必要。

以上